

公民館における舞鶴版社会教育の
推進について
意見書

第32期 舞鶴市社会教育委員会議

令和6年2月

目次

はじめに	1
舞鶴市の公民館	2
舞鶴市公民館概要	2
公民館の今後重視すべき役割について	6
1 国の動向について	6
2 学びの場の拠点としての公民館	9
社会教育事業(公民館事業)の考察	10
第1章 大浦地域活性化センター、多世代交流施設「まなびあむ」の考察	11
1 大浦地域活性化センターについて	11
(1)大浦地域活性化センターからの状況説明	11
(2)今後必要な取り組みについて 社会教育委員会議意見	12
2 多世代交流施設「まなびあむ」について	13
(1)多世代交流施設「まなびあむ」からの状況説明	13
(2)今後必要な取り組みについて 社会教育委員会議意見	15
3 共通課題について	16
第2章 舞鶴市公民館の考察	17
1 公民館の運営に関する現状と課題についてのアンケートについて	17
2 公民館に対する全体的考察	22
おわりに	24
資料編	25

はじめに

地域社会では、少子高齢化の急速な進展に伴う人口減少、価値観の多様化による人のつながりの希薄化など様々な社会的課題を抱えています。更には、近年の新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、人々の直接的な交わりを後退させたことで、希薄化を進行させるなど、私たちに深い問いを投げかけてきました。この当たり前の日常が奪われることで、私たちは改めて、人のつながりの重要性を再認識し、この様な予測不可能な状況においても、自立的に行動し、地域や社会を創造するための人材を育成することこそ、今後重要ではないかと考えたところです。

舞鶴市社会教育委員会議は、第30期、第31期において、社会教育の学びを通じた人づくり・地域づくりの指針となる建議を示し、多様性と包摂性のある地域をつくるため、他者と良い関係をつくり、他者や地域に関心を持ち、当事者として行動できる人材の育成を目指してきたところです。

以後、社会教育委員会議建議は、社会教育行政の指針として実施されてきたところですが、今期第32期社会教育委員会議では、建議に沿った人づくり・地域づくりの方向性を保持しながら、コロナ禍においても特に人づくりの拠点となる公民館について、今後の役割、具体的な方策が示せるよう検討していくこととしたところです。提言を検討していくにあたっては、令和5年度から実行される、第7次舞鶴市総合計画後期実行計画における趣旨に沿うよう、各地域の公民館の地域性などを考慮したうえで、今後必要な事業や運営面について公民館と意見交換しながら、社会教育行政の存在価値を高めることを念頭に議論を始めるものであります。

舞鶴市の公民館

公民館は、社会教育法において、市町村その他一定区域内の住民のために、实际生活に即する教育、学術及び文化に関する各種の事業を行い、もって住民の共用の向上、健康の増進、情操の鈍化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与することを目的とすると定められています。また、公民館は、地域の魅力を知り、地域に誇りと愛着を持つ人材を育成する、地域づくり、人づくりの拠点施設としての役割を担っています。

舞鶴市の公民館は、概ね中学校区に1館、全域で7館の公民館が設置され、そこを拠点として、高齢者、小中学生、子育て世帯向けの事業を中心に、参加者のつながりづくり、地域を学ぶ取り組み、世代間交流の促進など人づくり・地域づくり事業が実施されています。

舞鶴市公民館概要

(1) 多世代交流施設「まなびあむ」



- ① 設立年月日 2021年設立
- ② 施設形態 複合施設
- ③ 職員配置 館長・再任用職員 職員・会計年度職員3人
- ④ 概要 子どもから、現役世代、高齢者までの多世代がゆるやかにつながるための機会や場を提供する公民館機能を持ち合わせた、商業施設が入居する4階建の複合施設。
 - 1階……飲食店、金融機関、採菜館
 - 2階、3階…公民館機能
 - 4階……宿泊施設

(2) 中公民館



- ①設立年月日 2000年設立
- ②施設形態 複合施設
- ③職員配置 館長・再任用職員 職員・再任用職員1人、会計年度職員3人
- ④概要 中舞鶴地区に設立された、市公共機関が入居する5階建ての複合施設。周辺には、身障者センター、小学校、保育所などが設置され、住民活動も活発で、公民館の中では、貸館利用率が高い。
 - 1階・・・公民館、図書館分館、サービスセンター
 - 2階・・・市保健センター、子育て基幹センター
 - 3階・・・子供総合相談センター、地域包括支援センター
 - 4階・・・公民館、社会福祉協議会
 - 5階・・・フレアス舞鶴、ファミリーサポートセンター

(3) 南公民館



- ①設立年月日 1979年設立
- ②施設形態 単独施設
- ③職員配置 館長・再任用職員 職員・会計年度職員2人
- ④概要 東舞鶴の市街地に設立された施設で、強固な住民組織の基盤があり、協働して住民活動を支援している。図書館分館があり、休みに

なると小学生の利用が多い。

(4) 大浦地域活性化センター(大浦会館)



- ① 設立年月日 1996年設立
- ② 施設形態 単独施設
- ③ 職員 センター長・・現職1人 館長・・再任用職員
職員・・会計年度職員1人
- ④ 概要 東舞鶴周辺部の大浦地区に設立された施設で、近年、少子高齢化、人口減少といった社会環境の変化により、過疎化が進行し、地域課題である自治会存続の危機、有害鳥獣による農作物被害の増加、1次産業における担い手不足などに対応するため地域活性化センターが設立された。

(5) 西公民館



- ① 設立年月日 1968年設立
- ② 施設形態 複合施設
- ③ 職員配置 館長・・再任用職員 職員・・会計年度職員4人
- ④ 概要 西舞鶴地区の市役所支所内に設置された施設。西市街地の中心にあり、城下町の町並みを残し、館内には郷土資料館、周辺には

歴史資料館などが設立され、地域では伝統行事が実施されるなど、歴史文化を今に伝える取り組みが実施される地区にある施設。

1階・・・西市役所窓口、公民館、郷土資料館

2階・・・公民館

3階・・・公民館、林業センター、地域包括支援センター

4階・・・公民館

(6)城南会館



①設立年月日 2004年設立

②施設形態 単独施設

③職員配置 館長・・・再任用職員 職員・・・会計年度職員2人

④概要 西舞鶴高野地区にあり、新興住宅地、中山間地域、旧中心市街地
が混在する地域に設立された施設。木造建築で温かみがあり、施設裏には芝生広場、ウッドデッキがあり、子どもや地域住民が自由に利用できる様に解放されている。

(7)加佐地域活性化センター(加佐公民館)



- ①設立年月日 1988年設立
- ②施設形態 単独施設
- ③職員配置 センター長・・現役職員 館長・・現役職員
職員・・会計年度職員3人
- ④概 要 西舞鶴周辺部の加佐地域に設立された施設で、近年、少子高齢化、人口減少といった社会環境の変化により、過疎化が進行し、地域課題である自治会の存続の危機、有害鳥獣による農作物被害の増加、1次産業における担い手不足などに対応するため地域活性化センターが設立された。

公民館の今後重視すべき役割について

1 国の動向について

今後の社会教育が目指すべき姿については、平成30年12月に中央教育審議会により「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」が答申されました。以降、中央教育審議会生涯学習分科会における議論を経て、新たな時代の生涯学習・社会教育の充実のための学びの在り方、役割に加え、社会教育人材の育成及び活用について、議論の整理がされています。

(1) 人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について 中央教育審議会答申 平成30年12月

答申では、地域を取り巻く環境の変化を受け、今後の地域社会は、人と人がつながり、関わりを持ちながら、住民が孤立することなく心豊かに暮らしていける地域を創造していくことが大きな課題となる。そのためには、住民同士が良い関係を築き、地域課題を共有するとともに、社会教育活動で得た学びの成果を地域へ還元し、主体的な地域づくりができるよう社会教育もその進化を図ることが期待されている。

①今後の地域における社会教育のあり方

○人づくり

自主的、自発的な学びによる知的欲求の充足、自己実現・成長を促す。

○つながりづくり

住民の相互学習を通じ、つながり意識や住民同士の絆の強化を図る。

○地域づくり

地域に対する愛着や帰属意識、地域の将来像を考え取り組む意欲の喚起、住

民の主体的参加による地域課題の解決に導く。

②開かれ、つながる社会教育の実現

- 住民の主体的な参加のためのきっかけづくり
- ネットワーク型行政の実質化
- 地域の学びと活動を活性化する人材の活躍

③今後の社会教育施設に求められる役割

- 公民館：地域コミュニティの維持と持続的な発展を推進するセンター的役割の拠点
- 図書館：他部局と連携した個人のスキルアップや就業等の支援、住民のニーズに対応できる情報拠点
- 博物館：学校における学習内容に即した展示・教育事業の実施、観光振興や国際交流の拠点

(2) 第 11 期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理

～全ての人のウェルビーイングを実現する、共に学び支え合う生涯学習・社会教育に向けて～

中央教育審議会生涯学習分科会 令和 4 年 8 月

現在の地域社会では、ライフスタイルの変化等により、人のつながりの希薄化、困難な立場にある人々（貧困の状況にある子供、障害者、高齢者、孤独・孤立の状態にある者、外国人等）などに対する課題が深刻化するなか、社会的包摂とその実現を支える地域コミュニティが一層重要になる。

議論の整理の中では、生涯学習・社会教育が果たす従来の役割に加えて、ウェルビーイング及び社会的包摂の実現、デジタル社会への対応と地域コミュニティの基盤安定が求められている。

①生涯学習・社会教育が果たしうる今後の役割

○ウェルビーイングの実現

個人の幸せだけに着目するのではなく、その個人の家族・友人をはじめ日常的に関係を持つ他者、その個人が住む地域など個人が置かれている場に着目することが重要である。

○地域コミュニティの基盤

学びを通じた人と人のつながり・絆の深まりが、地域コミュニティの基盤を安定させる。

○社会的包摂の実現

貧困の状況にある子供、障害者、高齢者、孤独・孤立の状態にある者、外国人、女性などそれぞれに学習ニーズがあり、誰一人取り残すことなく、学習機会を提供することが求められている。

○デジタル社会に対応

デジタルによる格差や分断のないデジタル化を実現する社会的要請から、国民全体のデジタルリテラシーの向上を目指す。

②今後の生涯学習・社会教育の振興方策

○公民館等の社会教育施設の機能強化

○社会教育人材の養成、活躍機会の拡充

○地域と学校の連携・協働の推進

○リカレント教育の推進

○多様な障害に対応した生涯学習の推進

(3) 社会教育人材の養成及び活躍促進の在り方について(中間的まとめ)

中央教育審議会生涯学習分科会社会教育人材部会 令和5年8月

社会教育を通じた人づくり・地域づくりの推進には、世代を超えた地域のつながりづくり、次世代の育成、地域コミュニティの基盤安定が重要であり、そのために必要な学びの提供には、オンライン化の進展、多様な学習ニーズに応えることが必要である。こうした社会教育の裾野の拡大を見据え、地域コミュニティにおける学びを基盤とした自律的・持続的な活動の促進に資する社会教育の専門性を有する社会教育人材が果たすべき役割は大きい。

他方、社会の様々な行政分野において社会教育との連携が模索しているのに対し、社会教育主事の配置率は5割に満たない。今後は、学びを基盤とした社会教育活動をオーガナイズできる専門性を備えた社会教育人材の質的な向上・量的な拡大が極めて重要である。

社会教育の裾野の拡がり、社会教育人材が果たすべき役割

社会教育人材に関する施策の基本的な方向性

○地域社会の様々な場で活躍する社会教育人材の確保

多様な分野で社会教育人材を確保することは、相互の支え合いや組織的な教育力の発揮により、それぞれの活動の活性化だけでなく社会教育全体の振興にも資する。

○社会教育主事・社会教育士の役割の明確化と配置促進

地域活動における社会教育士の活躍機会の拡大により、社会教育主事の配置が、地域における社会教育やその関連分野の実践をつなげ、各取組の相乗効果的な充実を図る。

○社会教育人材に求められる能力・知見等とその養成の在り方

社会教育士受講については、工夫を凝らした多様な講習や養成課程の選択肢が提供され、受講者自身のニーズに応じて学習内容等を選択しうる環境を整備・拡充していくこと、実務経験を積むに当たって重要となる基本的な能力・知見等を身に付けることに比重を置くことを基本とし、その上でさらにコーディネート能力、ファシリテーション能力、プレゼンテーション能力などの習得が求められる。講習等の終了後においては、経験を積む機会や自主的あるいは相互に学ぶ機会、様々なニーズに応じた多様な研修の機会等を確保することにより、社会教育人材の資質の向上を図り、活躍を促進していくことが必要。

2 学びの拠点としての公民館

社会教育は、これまで、学校教育以外の場における学びの機会を提供し、自己実現と豊かな生活の実現のために貢献し、人づくりを通じて地域の発展に寄与してきました。今後の舞鶴市の社会教育が目指すべきものは、舞鶴市社会教育委員会議建議「人をつくり、地域を創造する生涯学習社会の推進」をもとに、学びを通じて人と人とのつながりを深め、それを地域の課題解決につなげていくことが重要で、このような手法によって「地域づくり・人づくり」を推進していくことと考えます。その社会教育を通じた学びの場の拠点となるのが、集いの場である公民館であり、その役割は、舞鶴市社会教育委員会議建議「各世代がつながる地域づくり」に示した以下のとおりと考えます。

～集いの場のあり方～

①個人と社会をつなぐ場 《結ぶ》

関心を持ち、楽しさや共感を得ながら集うことで、今まで出会うことのなかった多様な背景を持った人達が徐々につながり、やがては自分の居場所を見つめられることにつながる場。

②自己の成長が得られる場 《育つ》

交流、会話を通じて、知恵が生まれ、コミュニケーション、人との関わり方、多様性など様々なことを学び成長につなげ、内面的にも充実感を得られる場。

③自身が当事者になる場 《創る》

協働などをきっかけに、気が付けば自身がリーダー、フォロワーという当事者としての感覚と意識を持てる場につながり、自立した人材が育成される場。

～関係する人材のあり方～

公民館を拠点に人々に学びの場を提供し、地域課題を解決に導く人材を育成するため、公民館職員に求められる意識の持ち方や職務能力、資質などは、従前とは大きく変わってきており、コーディネーターとしての支援型のリーダーシップが求められているのではないかと考えます。更には、様々な人材を活動に巻き込むこと、様々な機関とのネットワーク構築を求められているとも考えられます。

社会教育事業（公民館事業）の考察

第32期社会教育委員会議は、舞鶴市社会教育委員会議建議に基づき、「目指す地域のあり方」に示す地域像、「目指す人材像」に示すライフステージ毎に応じた人材育成を推進するため、今後の社会教育事業(公民館事業)を考察するうえで、第1章として、大浦地区、加佐地区に新たに令和4年度に設置された「地域活性化センター」のうち、大浦地域活性化センターと、近年設置された多世代交流施設「まなびあむ」といった公民館の中心的役割を担う拠点について、それぞれの現状を把握し、これからの人づくり・地域づくりの拠点として、実施していくべき重要な具体的取り組みを議論することとしました。

また、第2章では、第1章で取り上げた2つの拠点の具体的取り組みを議論する経過のなかで、この様な取り組みが他の公民館にも波及し、舞鶴市全体に拡大していくことが重要であるとの考えから、アンケート調査などを通じて各公民館の実情などを分析し、具体的な取り組みを議論することが重要であると考えました。

1 大浦地域活性化センターについて

大浦地域活性化センターは、令和4年4月に開設しました。大浦地域は、加佐地域と同様に、少子高齢化、人口減少といった社会環境の変化により、世帯数の減少による自治会の存続の危機、有害鳥獣による農作物被害の増加、1次産業における後継者、担い手不足といった地域課題が指摘されており、こうした課題に行政も地域住民や団体等と連携し、一体的に対応するため、専任のセンター長を配置した施設です。

(1) 大浦地域活性化センターからの状況説明

現在、大浦地域では、地域団体である大浦振興協議会が中心となり、住民自らが「将来こんな大浦で暮らしたい」と思う地域の姿を議論し、その実現に向けた取り組みを進める「大浦夢プロジェクト」を推進しておられるところです。

大浦地域では、人口減少、少子高齢化、農業漁業後継者不足、空き家の増加など様々な課題や不安が指摘されるなか、地域活性化センターが設立されました。センターの事業コンセプトは、公民館事業、移住定住促進事業、住民自治支援事業、農漁村ビジネス支援事業など大浦地域を包括する取り組むべき事業を融合し一体的に地域の課題解決に取り組むべく、地域の自主的な活動とも十分に連携しながら、現場での支援充実に寄与するための取組を実施しています。

主な取り組み内容

- 舞鶴版社会教育理念「ゆるやかに人がつながる地域を目指して」の実現を目指した社会教育事業の展開
大浦の歴史を学ぶ大浦探訪ウオーク、つながりをつくるしあわせ冬ごもり講座(6つの講座のシリーズ化)、大浦女性の会主導の編み物教室など
 - 著名アーティストの参加による大浦米作りチャレンジを地域住民と実施
 - 地域在住の認定農業者レモン栽培を支援する、大浦パパレモンプロジェクト
 - 移住相談
- etc

(2) 今後必要な取り組みについて・・・社会教育委員会意見

①皆に知らせる

大浦地区の素晴らしさ、取り組みなど、積極的に情報発信し周知していく。

- 体験機会などを増やし継承していくことが大切。
- 若年層を意識した発信方法が大切。
- 高齢者にも紙媒体やデジタルで積極的に情報を流すこと、また地域に入り高齢者からの情報を収集することが大切。
- 参加者から口コミを拡大させるよう工夫し、大浦地域の特徴を他の地区にも拡散させることが大切。
- 地域の歴史文化に関する講座を積極的に開催し、レモン栽培など農業支援などは広く伝え、様々な人にも興味を持ってもらうことが大切。
- 子どもから親へ伝える工夫を増やし、大人にも興味を持ってもらうことが大切。

②色々な人と協力する

様々な人、団体などと協力しながらフォロワーを増やしていく。

- 地域の元気な70代世代を巻き込んでいくことが大切。
- 地元企業と連携しながら活動していくことが大切。
(ふるるファーム、エムズデリ、大丹生コミセン等)
- 移住者、民間事業者とのコラボを積極的に実施していくことが大切。
- 社会教育委員と連携していく。
- 女性の会など、地域団体と交じり合い、関わりを増やしていくことが、人のつながりを拡大させフォロワーを増やすことにつながる。

③学校と協力する

学校が動く地域も動くので、積極的に協働していく。

- 学校と協働して、子ども達に大浦地域の好きな所を引き継いでいくことが大切。
- 総合学習の時間を利用し地域学習を取り入れていくことが大切。
- 子ども達に様々な体験をさせることが大切。
- 大浦地域の人学校行事に夫婦で来ることが多いという地域性を生かすことが大切。
- 地域の祭りだけでなく、学校でもお祭りを開催し、フォロワーを増やしていくことが大切。
- 大浦ならではの地域と学校の取り組みを進めていきながら、他校にも情報共有することが大切。
- 他校と連携した取り組みをする場合、前年度から計画を立てていくことが大切。

④その他

- ワクワクする様な面白い経験の積み重ねが人の心に残る。
- 体験し、なおかつ、地域の特産など何かを作って持って帰る事業には人が集まる。
- 楽しい音楽を通じた交流は人を癒す。社会教育委員もコーディネートするのに力になれる。
- 地域の魅力を伝える地域学習は大切。
- 地域の人にしかできないことを体得させることが地域の誇りになる。
(伊根町では学校の家庭科の授業で魚をさばく授業を受け入れている。結果全員三枚おろしができる地域になっている。)
- 地域の特産品を子どもが宣伝する機会を与えるなど、地域の誇りにつなげる。
- 伊根町では、保健センターにおいて子供が生まれた数を全数把握し、地域にお知らせし、お祝いなどを行っている。
それを地域の喜びにかえ、住み心地の良さにつなげている。
- 女性目線での住み心地を考えることが大切。
- 都市部の学生と学習支援的なことを実施するのも面白い。
- 地域の住民、企業と積極的に会話することが大切、それにより何かが動き出すこともある。
- これからの事業拡大を考えると、センターの人員確保が必要ではないか。

2 多世代交流施設「まなびあむ」について

多世代交流施設「まなびあむ」は、旧舞鶴市立舞鶴市民病院の西棟(4階建)を改修し、民間施設も同居する複合施設として、令和3年7月に開設しました。

これまで東公民館が果たしてきた、地域づくり、人づくりの中核施設としての役割はそのままに、また、文庫山学園の機能を集約しながら、多世代交流を推進し、ICT環境を整備することで、他の公民館とも連携した新たな魅力ある地域の公民館を目指すことを目的として設置されました。

(1) 多世代交流施設「まなびあむ」からの状況説明

多世代交流施設「まなびあむ」は、公民館機能は2・3階、1階は、カフェ、農協東支店、農家野菜直販所、4階は、ホテル「若者等交流簡易宿泊所」が入居する複合施設です。開設以降、現役世代を巻き込み、多世代の交流機会を拡大するための事業を展開しています。

一方で、社会教育の範囲が広いため、新たに設置された施設に対し存在意義を見

い出せていないのが現状です。それは、公民館という拠点の曖昧さから、趣味や教養の偏重状態に陥り、公民館全体の存在意義が曖昧になっているのではないかという課題からきているのかもしれませんが。私達は、公民館事業を実施する時、地域課題など問題意識を持ち、「誰のために」、「何のために」、住民や地域社会が「どうなってほしいのか」、そのためにどういう事業を打つのか、目的意識を鮮明にして成果を追求しながら、個々の事業を創り上げていかなければならないのではないかという疑問もありますが、そこは、社会教育委員会議建議の方向性を踏まえながら、先に述べた課題意識を持ち、事業内容や職員の質を向上させていきたいと考えながら運営しているところです。

主な取り組み内容

- 視覚障害者と共に学ぶ、「触る名画『触の博覧会』」
 - 様々な人が集う、まなびあむストリートピアノを設置
 - 現役世代の課題に応える「現役世代のための『まなぶ！連続講座』」(全8回)
 - 忙しい方のための健康づくり教室(全5回)
 - 身近な地域課題解決のための、安全な草刈機使い方教室、庭木剪定初心者教室
 - コロナ禍での対面交流制限を乗り越える“静かな交流”づくり、感動し印象に残った作品に“いいなシール”を貼り作者へお返しするメッセージ展～いま私が伝えたいこと
 - 舞鶴ほっこり写真展
 - 地元の教育機関との連携、ガンダムプラモデル初心者教室(舞鶴高専ハンドメイド部)
 - 入居事業者JAとの1周年記念事業
 - 宿泊施設と連携した、父子親子のイベント企画
- etc

(2) 今後必要な取り組みについて・・・社会教育委員会議意見

①色々な人と協力する

地域を熟知する人、専門的な知識を持つ人など、様々な人と連携することで目的を達成していく。

- 複合施設の強みを生かし、様々な主体と連携し拡大していくことが大切。
- 入居事業者と連携した多世代による交流事業の実施により、来館したことが無い人をも呼び込み、更なる交流促進につなげていくことが大切。
- 地区の小中学校、高校とも連携を重視し、地域の子どもを巻き込みながら地域住民との多世代による交流を促進していくことが大切

②ゆるやかなつながりづくり

皆が集いやすように、気軽さと親しみからつながりを創っていく。

- 現役世代を巻き込むために、敷居を下げ興味関心をきっかけに実施していくことが大切。
- 幅広い年齢層が参加できる事業の工夫が必要。
- 事業終了後に、参加者同士又は職員や講師と雑談できる時間づくり、終了後も連絡を取り易い環境を作り、次回参加してもらえりような仕掛けづくりをしていくことが大切。
- 事業の参加者同士がラインでつながる仕掛けをしていく。
- 一般来館者が利用した後に、居心地が良いゆるくお話ができる場所を提供することが大切。
- 参加者が楽しく過ごせるよう、公民館職員は人懐っこく愛想の良い姿を目指すことで、来館を促すことが大切。

③地域のことを知る

地域に積極的に入り、ニーズや課題をつかみ事業にいかす。

- 館職員が積極的に利用者と会話し共感できる雰囲気づくりが大切。
- 地域に働きかけ、公民館事業や市民の活動状況を積極的に周知できる機会を設ける。
- 地域で盛んな催しがあれば、その目標に合わせた講座づくりをし、地域住民で楽しむ仕掛けをつくり、地域行事に関心を持たせることが大切。
- 館職員は、地域の中で楽しそうな事業にも関心を持ち、公民館でも実施するなど、地域の人と積極的に会話をするのが大切。

④事業を考える方法、情報を伝える

公民館事業にも工夫し、積極的に情報発信していく。

- 公民館事業の方向性は地域の特性を生かして考えていくことが大切。
- メインになる事業をつくり、その目標に向けて取り組める仕掛けづくりが大切。
- 親が子供にしてやりたいことを掴み、その内容を講座として実施することも大切。
- 子供を中心に交流事業をすることで、自分が大人になったときのことを想像しやすくすることが大切。
- 世代毎に情報発信の多様化、地域に入りながら広報していくことが大切。
- 時には大人数で実施するなど、大きく大胆に実施していくも大切。
- 多世代という言葉に焦点をあてるのではなく、とにかく人を集めるところに焦点を置き、それが多世代交流につながるよう考えていくことが大切。
- コロナ過で止まっていた事業の復活をしていくことが大切。

3 共通課題について

今回訪問した大浦地域活性化センター、多世代交流施設「まなびあむ」については、地域の特色はあるものの、共通する事項として以下の様に考えます。

- 各館の課題を館長会などで共有していくことで、全体的な特色を把握していくことが大切。
- 各館には地域性もあり統一することは難しいため、地域の特色に合わせた事業展開が大切。
- 事業に対する想いを持つ職員が必要で、地域をよく理解し特性に合わせた事業ができる館長を置くことが大切。
- 例えば地域から館長や職員を公募すること、そして単年度で交代するのではなく一定期間従事させることが必要。
- 地域に合わせた事業をしながら存在感を示していくことが大切。
- 参加者の中には、集う場が欲しいと願う人達が多い。参加者同士による主体的な行動を促すためには、何が必要かを考えある程度寄り添っていくことが大切。

第2章 舞鶴市公民館の考察

第1章の議論を経て、社会教育委員会では、改めて地域毎に様々な特性があることを認識したうえで、その特性に合わせて各公民館事業を考察していく必要があると考えました。

第1章では、「大浦活性化センター」と多世代交流施設「まなびあむ」について考察しましたが、他の館について考察していくうえで、今後の公民館運営に重要な人材として公民館館長、職員の考え方、その適性について分析する必要があると判断し、まずはアンケート、ヒアリング調査を実施し分析をすることとしました。

1 公民館の運営に関する現状と課題についてのアンケート調査について

(1) アンケート調査の実施方法

上述の通り、社会教育委員会では、公民館の今後のあり方を考察するための基礎資料とするべく、公民館の職員を対象としたアンケート調査を2023年8月に実施しました。アンケート調査の実施方法をまとめると以下の通りです。

- ・実施日程:2023年8月
- ・配布対象:多世代交流施設まなびあむ、中公民館、西公民館、南公民館、加佐公民館、大浦会館、城南会館に勤務する職員
- ・配布方法:舞鶴市地域づくり支援課の職員が各公民館に配布
- ・回収数 :24件

(2) 今後の方向性としての「ゆるやかなつながりづくり」

まず、「公民館で勤務する上で重要だと思うこと」について、選択肢を示したうえで上位3位まで選んでもらう質問し、第1位の回答を3点、第2位の回答を2点、第3位の回答を1点として集計したところ、図1に示す結果となりました。社会教育委員会では意見の一つに「ゆるやかなつながりづくり」を取り上げていますが、公民館の職員の皆さんも同様に「住民の交流」を重要視していることがうかがえます。

選択肢	点数
⑤住民の交流を促す機会をつくりだすこと	70
②来場者に適切に対応すること	64
⑥住民の学びを促す機会をつくりだすこと	56
③住民のニーズに合った企画を行うこと	48
⑦住民に公民館の活動を知ってもらうこと	38
⑧予算管理や事務手続きを適切に行うこと	20
⑩他の施設・機関と適切に連携すること	14
⑨地域の情報を収集・分析すること	13
④多種多様な企画を行うこと	11
①施設設備を適切に維持・管理すること	7

図 1 公民館で勤務する上で重要だと思うこと

次に、公民館で実施しているイベントに関して充実度を 5 段階で評価してもらい、その中でも特に今後充実させたいものを質問したところ、図 2 に示す結果となりました。現状では、高齢層の参加が見込めるイベントが最も充実しており、次いで学齢期の児童生徒の参加が見込めるものが充実しているという回答が多かったのですが、「今後充実させたいもの」としては「多世代の参加が見込めるもの」「参加者同士の交流が見込めるもの」という回答が上位となり、ここでも「ゆるやかなつながりづくり」で考える方向性と一致する結果となりました。

質問項目	充実度の平均値	今後充実させたいもの
⑤60代以上の高齢層の参加が見込めるもの	4.21	1
②学齢期の児童生徒の参加が見込めるもの	3.88	2
⑥多世代の参加が見込めるもの	3.42	9
⑨参加者同士の交流が見込めるもの	3.38	5
①就学前の子どもの参加が見込めるもの	3.08	0
④30～50代の現役世代の参加が見込めるもの	3.04	4
⑦障害のある方の参加が見込めるもの	2.17	0
③20代の若者の参加が見込めるもの	2.04	1
⑧外国にルーツがある方の参加が見込めるもの	1.79	0

図 2 公民館における現状のイベントの充実度および今後より充実させたいと思うもの

以上の結果から見ても、「ゆるやかなつながりづくり」は社会教育委員会議だけでなく、社会教育の現場を担う公民館の職員もまた同様に重要視していると考えます。

(3) 「ゆるやかなつながりづくり」を目指す上での課題

「ゆるやかなつながりづくり」を目指すといっても、それを実現していくためには様々な課題が存在します。アンケート調査の各回答や自由記述の結果を見ると、基本的な施設設備上の課題(お手洗いの老朽化、情報通信機器・環境の不足など)に加え、特に人材確保に関する課題が多く挙げられていました。

まず、公民館の「施設、設備、人員等の充実度」について各項目 5 段階で回答してもらったところ、図 3 に示す通り、そもそも人手・マンパワーや、講師等を招聘するための人脈についての評価が低くなる結果となりました。また、自由記述の回答の中には、単純に人手が足りないということに加えて、シフトの融通が利きづらく、職員全員が集まっての企画会議が行いにくいという意見や、土日勤務を行いつらく週末のイベント運営が難しいという意見が見られました。

質問項目	充実度の平均値
①利用者の需要に対しての部屋の数	3.58
③利用者の需要に対しての通信環境 (Wi-Fi等)	3.46
⑤情報機器 (PCやプロジェクタ等) の整備	3.25
⑥職員の職務のための機器、事務用品等	3.25
⑧公民館を運営するための人手、マンパワー	3.17
②利用者の需要に対しての部屋の種類 (調理室、防音室等)	3.04
④利用者の需要に対しての展示スペース	3.00
⑦講師等を招聘するための人脈	2.96

図 3 公民館における施設・設備・人員等の充実度

次に、「公民館に勤務することになった動機、きっかけ」について、各項目をそれぞれ 5 段階で評価してもらったところ、図 4 にまとめる結果となりました。回答の平均値を見ると、「④勤務条件が自分に合っていたから」と「⑥人事異動の結果であり特に動機がない」が高い結果となり、特に「⑥人事異動の結果であり特に動機がない」について

は回答のバラツキが大きく、人によって回答傾向が大きく異なるものとなっています。このことから、公民館の職員については、その勤務当初は社会教育に関する専門性や識見を必ずしも十分に有しているわけではないということが分かります。自由記述の回答結果も見てみると、着任1～2年目あたりは基本的な業務を覚えることに手一杯で、新しい企画を立案したりする余裕が無いといった趣旨の意見も多くあり、職員の人事配置についてもまた、そのあり方を見つめ直す必要があるのではないのでしょうか。

こうした回答に加えて、公民館における企画の立案・運営にあたっては、職員だけでなく地域住民の参画によって実現できているとする意見もありましたが、公民館の職員と地域住民とのつながり・協力関係・信頼関係を構築していくためには3～5年程度の時間が必要とする意見もありました。このことから、特に公民館のまとめ役となる館長の勤務形態や育成方法については改善の余地があると考えます。

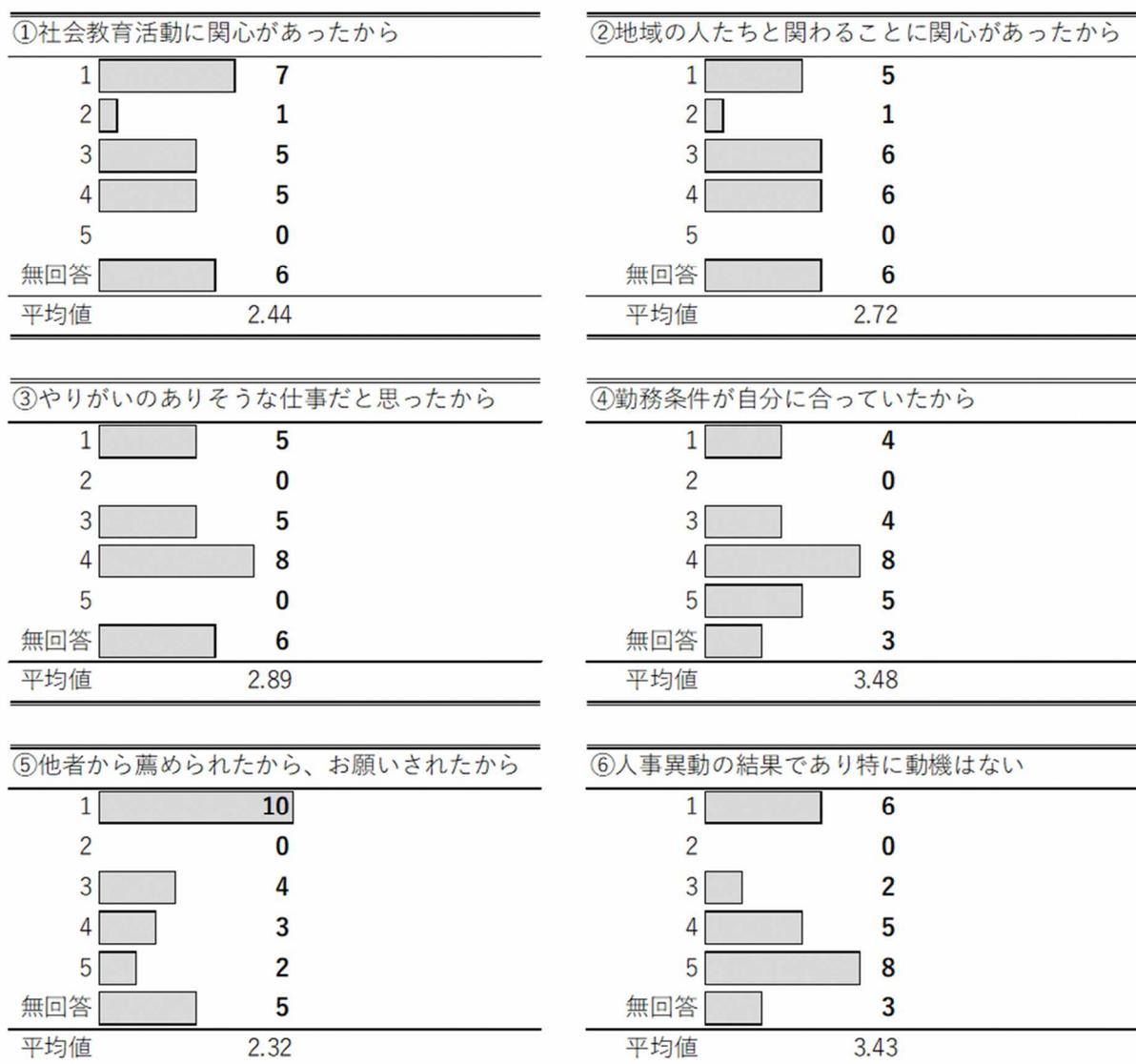


図4 公民館に勤務することになった動機、きっかけ

なお、アンケート調査の質問項目の中には、学生時代および現在の地域との関わり方について質問する項目もありましたが、その回答結果をもとにクラスター分析を行ったところ、回答者は4つのクラスターに分類されました。各質問項目の回答結果から、それぞれのクラスターの特徴をまとめると、概ね以下の通りです。

- ①学生時代に公民館、地域行事等によく参加しており、現在も近隣住民との交流をよく行っている(9名)
- ②学生時代にそれなりに地域行事等に参加しているが、現在はあまり近隣住民との交流はない(5名)
- ③学生時代にそれなりに地域行事等に参加しており、現在も近隣住民とそれなりに交流している(8名)
- ④学生時代はあまり地域とのかかわりは無かったが、現在は近隣住民とそれなりに交流している(1名)

さらに、これらのクラスターごとに、勤務のきっかけに関する回答結果の平均値をまとめると以下の表のようになりました。この結果から、クラスター①に分類される職員の方は、勤務当初から社会教育活動に高い関心を示していたことがうかがえます。このことは、社会教育活動を充実させ地域住民の交流を促すことは、将来の社会教育の担い手となる人材を育成することにもつながるということを示唆しているのではないのでしょうか。

	クラスター			
	1	2	3	4
①社会教育活動に関心があったから	3.14	1.00	2.33	4.00
②地域の人たちと関わることに関心があったから	3.29	2.00	2.33	4.00
③やりがいのありそうな仕事だと思ったから	3.43	2.25	2.50	4.00
④勤務条件が自分に合っていたから	3.75	2.50	3.57	4.00
⑤他者から薦められたから、お願いされたから	2.63	1.50	2.00	5.00
⑥人事異動の結果であり特に動機はない	2.86	3.80	4.00	1.00

いずれにしても、今度の公民館の活動を充実させ、「ゆるやかなつながりづくり」を実現していくためには、公民館の運営を担う人材の育成・確保が必要不可欠であり、公民館職員の人材配置について一考する必要があるとともに、公民館を運営するにあたってのスキル・専門性について今後も整理・検討していくことが重要であると考えます。

2 公民館に対する全体的考察

公民館は、人と人のつながりを創り、地域の課題を解決する人材の育成を实践するうえで拠点となる場と考えます。

社会教育委員会議では、アンケート調査分析結果の考察や公民館長との合同会議で意見交換をするなかで、地域課題を解決できる人材を育成するため、コーディネーターとしての公民館の役割が生かされるよう、まずは地域住民に興味を持ってもらえるような事業を企画し多くの方に参加してもらい、拠点が活性化するために全公民館の運営、事業実施に係る全体的な考え方について以下の様に考えました。

①気軽に来館してもらおう方を増やす

- 周辺施設と連携したイベントや、情報発信を行う。
- 会議室の名前を変えてみる。
- 共有スペースを自由活用する。(PCを使用できる場所、自学スペース等)
- 情報発信を積極的に行う。
- ハード面は優先順位をつけて計画的に改修を実施。

②魅力ある事業づくり

- 何をするか、目的がわかる様な事業名にする。
- 地域の意見、参加者の意見を聞いて実施する。
- 季節毎のイベントを利用するなど具体的事業名で実施する。
- 他館で成功した事業を共有し、新たなアイデアのきっかけにする。
- スマホ教室などは、具体的な目標(年賀状づくり等)を設定し実施するのが良い。
- 外部の人を巻き込んで実施していく。
- 各公民館で実施した事業の講師等をデータベース化し、各公民館で共有する。

③公民館職員の人材育成

- 公民館職員で交流し、情報共有しながら事業アイデアを出す機会を作る。
- 長期的な人員配置をしていく。
- やる気ある人材を登用していく。
- その地域のことをよく知り、課題を認識している人を館長にする。
(学校長などは地域課題などを良く知り、対応している人が多い。)
- 失敗を恐れずに実施することで、学ぶものもある。
- 視察などでスキルを向上させる。
- 人手不足で事業が困難な場合は、少額委託も考慮する。

- 参加者からも事業企画などに参加できる人を探す。
- 地域の人材を活用していく。

公民館は、地域と住民を結ぶための重要なコーディネート機能を有すると考えることから、まずは、人々の集いを促し続け、そこで発生する人のつながり方など、様々な反応を見極めることが重要であると考えます。人のつながりは、例えば事業が終わった後の“10分後”に主体的な活動につながるが多いという特性を生かし、常に人々の集いを観察し、行動や会話に耳を傾け、少しの工夫と配慮をすることも重要だと考えます。

また、公民館長合同会議での公民館長が出された意見では、成果につなげていくための課題等が挙げられ、解決につながる手法に悩みを抱えていることも伺いましたが、あまり難しく考えず、こだわり過ぎないこと、とにかく地域の人と会話し何を望んでいるのかを見極め、住民と公民館職員との信頼を築くことも重要だと考えます。

おわりに

○今期社会教育委員会議で示した、今後の公民館運営や仕組み、事業についての議論は、舞鶴市社会教育委員会議で示された今後の社会教育を通じた人づくり・地域づくりを推進していくために必要な基礎を築くためのものだと考えます。公民館がこれまで創り上げてきたものを生かしながら、新たな公民館事業の考え方や仕組み、公民館職員の人材育成などを推進すること、現状で抱えている公民館の課題などを分析し解決することで、変化していく社会状況や住民ニーズに応え、舞鶴版社会教育を推進していけるものと考えております。

○現在では、全国にある公民館の施設数は減少傾向にあります。人づくり・地域づくりの拠点として重要な役割を担う公民館はその存在意義を示し、多くの人に感じてもらえるような事業を一つでも多く実施していくことがとても重要で、そのことことが、地域社会の発展につながるものと考えます。

○そのためには、公民館事業の再構築や職員の人材育成なども重要であると考えます。その公民館事業の場において最も多くのことを最も深く学んでいるのは、事業を企画運営している公民館職員です。その気付きを次の行動につなげて行くことこそ、地域住民の交流を促し、社会教育の発展に寄与していくものと考えことから、社会教育委員も協力していきたいと考えております。そういう意味では、今回の議論では出来なかった他の地域性が異なる公民館についても、地域の特色を生かした事業について議論していく必要があることから、次期社会教育委員会議への申し送り事項にしたいと考えます。

○これまで多くの住民が公民館などを拠点に集い、学びを深めてこられました。その培った知識や経験を社会に還元し地域課題解決につなげていけるようコーディネートすることが拠点としての公民館の役割であり、そして、そのことが生涯学習推進に寄与し、ひいては、地域の活性化につながるものと考えことから、この意見書を通じて、今後も引き続き、舞鶴版社会教育の推進に尽力されることを期待するであります。

第32期社会教育委員会議
会長 福原 習作

資 料 編

①第32期舞鶴市社会教育委員会議審議記録

回数	開催日	審議内容
第1回	令和4年 5月26日	<ul style="list-style-type: none"> ○委嘱書交付 ①令和4年度社会教育関係団体への補助金の交付について ②社会教育について ③舞鶴版社会教育について ④第32期社会教育委員会議テーマ設定について
第2回	令和4年 8月 9日	<ul style="list-style-type: none"> ○高島市市民大学設立準備委員との意見交換会 ①行動する社会教育委員について ②舞鶴市社会教育委員会議の取組について ③高島市市民大学設立準備委員会取組について ④その他
第3回	令和4年11月24日	<ul style="list-style-type: none"> ○大浦地域活性化センター（大浦会館）にて意見交換会 ①大浦地域活性化センターから概要説明 <ul style="list-style-type: none"> (i)地域の現状や課題について (ii)大浦地域活性化センター設立経緯、実施事について (iii)今後の事業の課題等について ②大浦地域活性化センターの人づくり事業について意見交換 ③その他
第4回	令和5年2月16日	<ul style="list-style-type: none"> ○多世代交流施設「まなびあむ」について意見交換 ①「まなびあむ」から概要説明 <ul style="list-style-type: none"> (i)地域の現状や課題について (ii)「まなびあむ」実施事業について (iii)今後の事業の課題等について ②「まなびあむ」人づくり事業について意見交換 ③その他

第5回	令和5年 5月18日	<ul style="list-style-type: none"> ①令和5年度社会教育関係団体への補助金の交付について ②社会教育事業(公民館事業)について意見交換(公民館長との意見交換) ③その他
	令和5年8月1日	<p>公民館の運営に関する現状と課題についてのアンケート調査、ヒアリング実施 (まなびあむ、大浦会館、中公民館、西公民館)</p>
	令和5年8月4日	<p>公民館の運営に関する現状と課題についてのアンケート調査、ヒアリング実施 (南公民館、城南会館、加佐公民館)</p>
第6回	令和5年11月2日	<ul style="list-style-type: none"> ①前回会議での意見内容(公民館長との意見交換を終えて) ②公民館の運営に関する現状と課題についてのアンケート分析結果について(中間報告) ③公民館における社会教育事業意見書について
第7回	令和6年 2月 1日	<ul style="list-style-type: none"> ①前回会議での意見内容等について ②公民館における社会教育事業意見書について
	令和6年2月22日	市長、教育長報告会

第32期舞鶴市社会教育委員

(任期：令和4年4月19日～令和6年4月18日)

No	氏名	選出区分	備考
1	阿部 秀雄	公募委員	
2	井ノ口 美津子	学校教育関係者	
3	江上 直樹	学識経験者	
4	田中 美香子	社会教育関係者	
5	谷口 英子	家庭教育関係者	副会長
6	畠中 好野	家庭教育関係者	
7	福原 習作	社会教育関係者	会長
8	藤村 文美	社会教育関係者	
9	渡辺 弘	社会教育関係者	